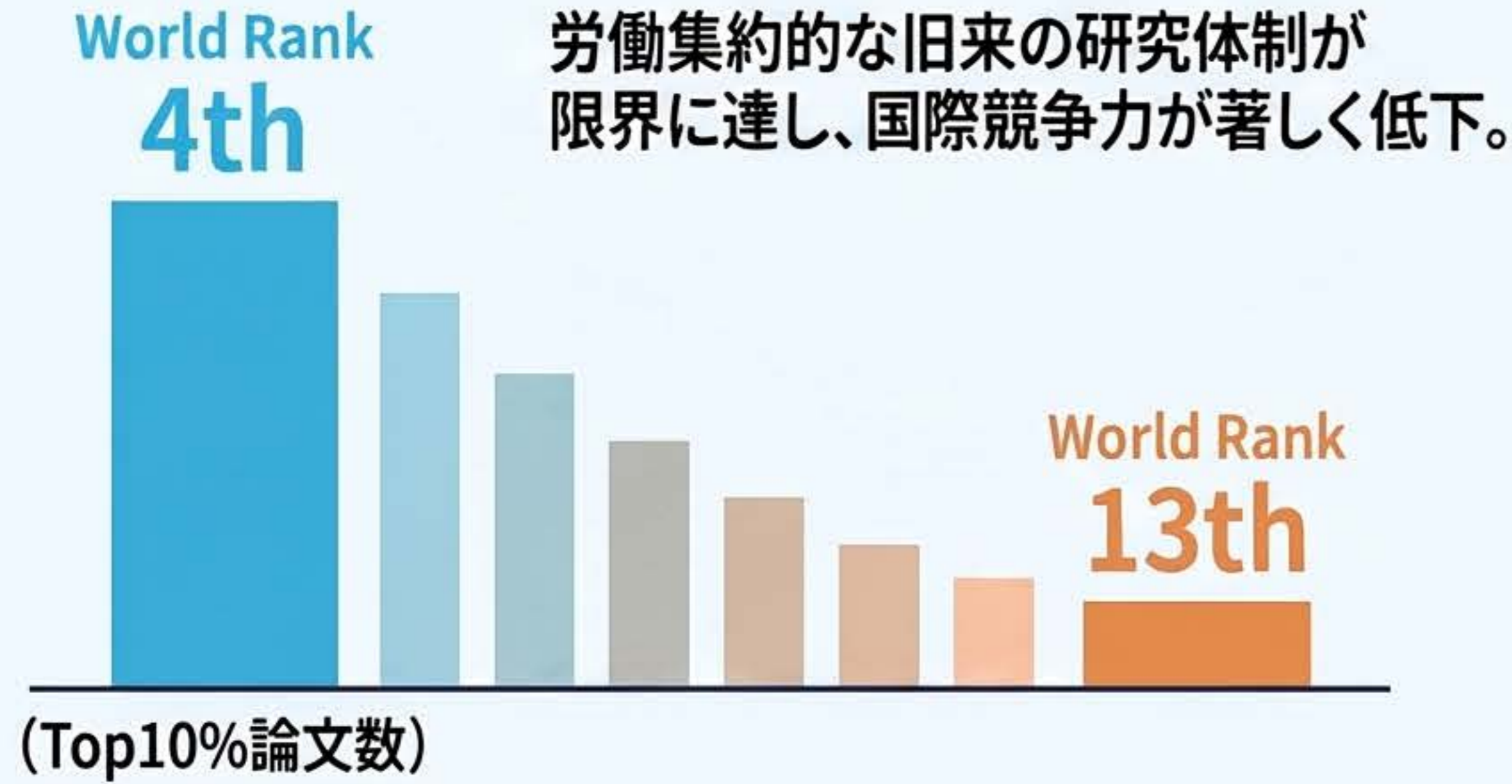


# 日本の「AI for Science」国家戦略：科学の再興に向けた独自の勝ち筋

日本が直面する研究力の危機を打破するための、AIとロボティクスを融合させた国家規模の戦略と投資構造、および技術的な優位性を提示する。

## 構造的危機の打開と「バーベル型」投資戦略



**ARiSE**

支援規模 (1課題): 10億円~30億円

対象・目的: マテリアル・バイオ等の特定分野への「選択と集中」



**バーベル戦略**  
集中と民主化を両立

フラッグシップのARiSEと、裾野を広げるSPReADでエコシステムを構築。



**SPReAD**

支援規模 (1課題): 約500万円

対象・目的: 年間1,000課題を採択し、AI利用の「民主化」を推進

## 日本独自の「勝ち筋」と2035年へのロードマップ

実験を完全無人化する「自律型研究ラボ」:  
AIとヒューマノイドロボットを融合し、仮説から検証までを自動循環。



実験を完全無人化する「自律型研究ラボ」:  
AIとヒューマノイドロボットを融合し、仮説から検証までを自動循環。

「富岳NEXT」と省電力チップによる計算機主権



HPCとAIの融合基盤に加え、国産AIチップでエッジ側の推論能力を極大化。

2035年: AI関連論文数で世界第3位への復権



5年間で3,000名の高度人材を育成し、科学の再興 (ルネサンス) を実現。